

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	家族療法・ブリーフセラピー特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ－	MP5300
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数 2.0
授業のテーマ	家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーについて学び、実践する。						
授業の概要	家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーにおける問題解決や解決構築の理論と技法について学ぶことを目的とする。1970年代より発展してきたブリーフセラピーについて概観し、ブリーフセラピーにおける問題の捉え方、またはその解決、解決の構築などの考え方／哲学について学ぶ。また、事例やロールプレイを通して、技法の実践について体験的に学ぶ。						
到達目標	1. 家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの主要な理論と技法について説明できる。 2. 家族療法やブリーフセラピーの技法をロールプレイで実践できるようになる。 3. 家族療法やブリーフセラピーの視点で面接場面のコミュニケーションについて解説できる。						
授業計画	第1回 家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際 (1) システムの構造と機能 第2回 家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際 (2) 変化の理論 第3回 家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際 (3) 介入の実際 第4回 ブリーフセラピーの理論と実際 (1) 理論的枠組み 第5回 ブリーフセラピーの理論と実際 (2) 変化の理論 第6回 ブリーフセラピーの理論と実際 (3) 介入の実際 第7回 社会構成主義と解決構築 (1) 理論と姿勢 第8回 社会構成主義と解決構築 (2) 質問と会話の実際 第9回 社会構成主義と解決構築 (3) 演習を中心に 第10回 治療的会話について (1) 治療関係 第11回 治療的会話について (2) 会話の展開 第12回 治療的会話について (3) 演習を中心に 第13回 解決構築における技法論 (1) 質問技法の実際 第14回 解決構築における技法論 (2) 事例にみる技法 第15回 解決構築における技法論 (3) 演習を中心に						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について家族療法関連の専門書にて予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ						
評価基準と評価方法	学びの姿勢や態度、面接技術の習熟度と理解度、発表や発言の内容などにより総合的に評価する。具体的には、ロールプレイの参加姿勢50%、ディスカッションの内容50%。						
履修上の注意	ロールプレイや発表をはじめ、自発的積極的参加が望まれる。システムズアプローチ、ソリューション・フォーカスト・アプローチやナラティブ・セラピーの専門書を読み、会話のスキルについて自己学習しておくこと。						
教科書							
参考書	遊佐安一郎著「家族療法入門－システムズ・アプローチの理論と実際」星和書店 坂本真佐哉、和田憲明、東豊著「心理療法テクニックのすすめ」金子書房 坂本真佐哉編「逆転の家族面接」日本評論社						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	グリーフケア特論						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバー	MP5250
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	悲嘆やトラウマについての基礎知識と具体的な支援の方法を学ぶ。						
授業の概要	さまざまな原因で大切な人を失った者が受ける心理的影響は多岐にわたる。本講義では、悲嘆（grief）とは何かについて学んだ後、複雑性悲嘆や他の精神疾患との差異について理解を深める。また、実際の事例やDVD視聴などを通して、グリーフケアやトラウマケアに関する具体的な支援の方法を学ぶ。						
到達目標	(1) 悲嘆やトラウマについての知識を整理することができる。 (2) グリーフケアやトラウマケアについての具体的な支援の方法を学び、実践できるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 悲嘆の基本的理解と症候学的位置づけ 第3回 トラウマがもたらす心理的影響 第4回 支援・介入の実際：コミュニティへの介入（災害） 第5回 支援・介入の実際：コミュニティへの介入（災害） 第6回 支援・介入の実際：コミュニティへの介入（学校） 第7回 支援・介入の実際：コミュニティへの介入（緩和ケア） 第8回 支援・介入の実際：個人への介入（心理教育） 第9回 支援・介入の実際：個人への介入（ロールプレイ） 第10回 支援・介入の実際：個人への介入（グリーフカウンセリング） 第11回 支援・介入の実際：個人への介入（ロールプレイ） 第12回 支援・介入の実際：個人への介入（複雑性悲嘆の治療） 第13回 支援・介入の実際：個人への介入（トラウマの治療） 第14回 惨事ストレスと二次的外傷性ストレス 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	関連する専門書や事例論文をよく読み、理解を深めること。						
授業方法	講義と演習、ロールプレイ						
評価基準と評価方法	授業への参加度（40%）と発表（60%）により総合的に評価する。						
履修上の注意	原則として、遅刻や欠席は認めない。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『心的トラウマの理解とケア 第2版』金吉晴（編）じほう ISBN978-4-8407-3543-8 『悲嘆カウンセリング』J.W. ウォーデン（著）山本力（監訳）誠信書房 ISBN978-4-414-41445-5 『「悲しみ」の後遺症をケアする—グリーフケア・トラウマケア入門』角川学芸出版 ISBN978-4-04-651613-8						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	社会心理学特殊研究						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバー	MP5190
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学的研究について学ぶ						
授業の概要	雑誌論文を読み、文献レビュー、研究仮説の設定、研究方法、結果のまとめ方、考察の導き方の実際例を理解する。						
到達目標	自らの論文執筆のための文献レビューの仕方を身につける。 自らの論文執筆のための社会心理学的研究の知見を得る。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、雑誌論文について、レジメのまとめ方 第2回 文献のまとめ(1) 対人認知 第3回 文献のまとめ(2) 態度、態度変容 第4回 文献のまとめ(3) 認知的複雑性、認知的斉合性理論 第5回 文献のまとめ(4) 対人魅力 第6回 文献のまとめ(5) 意思決定 第7回 文献のまとめ(6) 帰属 第8回 文献のまとめ(7) 集団規範、同調、服従 第9回 文献のまとめ(8) 自己概念 第10回 文献のまとめ(9) 説得、コミュニケーション 第11回 文献のまとめ(10) 社会的比較 第12回 文献のまとめ(11) 社会的交換 第13回 文献のまとめ(12) 社会的アイデンティティ理論 第14回 文献のまとめ(13) 自己開示、自己呈示 第15回 修士論文の作成について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で取り上げる文献を読み、レジメにまとめる。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	平常点100%						
履修上の注意	発表の際には、受講者の人数分のレジメを作成すること						
教科書							
参考書	「社会心理学研究」、「心理学研究」、「実験社会心理学研究」の最近の文献						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	社会心理学特論Ⅰ						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバー	MP5220
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学と臨床心理学のインターフェイスについての学習						
授業の概要	「はじめての臨床社会心理学」の教科書と、指定した雑誌論文5本を輪読し、これまで臨床心理学が扱ってきた問題に対して、主に自己と対人関係に関する社会心理学からアプローチする。また、最新の実証的研究について学ぶ。						
到達目標	社会心理学の知見を生かして、臨床心理学の諸問題を考えることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、指定討論者割り当て 第2回 教科書1, 2, 3章 帰属と帰属療法 (前半) 第3回 同上 (後半) 第4回 文献1) 後藤崇志 (2013) 自己制御行動がバーンアウトに及ぼす影響：就労者の自律性に着目したパネル調査に基づく検討 社会心理学研究, 28, 125-136. 第5回 教科書4, 5, 6章 自己意識と抑うつ (前半) 第6回 同上 (後半) 第7回 文献2) 市川玲子・望月聡 (2015) パーソナリティ障害と顕在的-潜在的自尊感情間の乖離との関連 心理学研究, 86, 434-444. 第8回 教科書7, 8, 9章 自己開示と自己呈示 (前半) 第9回 同上 (後半) 第10回 文献3) 藤井 勉ら (2015) 潜在的な愛着の内的作業モデルと情報処理の関連 心理学研究, 86, 132-141. 第11回 教科書10, 11章 援助行動, ソーシャル・サポート, 攻撃行動 第12回 文献4) 梅垣祐介 (2017) 心理的問題に関する援助要請行動と援助要請態度・意図の関連 心理学研究, 88, 191-196. 第13回 教科書 終章 これからの臨床心理学, 第14回 文献5) 梶原潤ら (2015) 医療領域での多職種協働における臨床心理職の課題 東京大学大学院教育学研究科紀要, 55, 291-301. 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	次の授業で扱う教科書、および文献を予習する。						
授業方法	教科書、雑誌論文の文献を輪読し、その後、各回の指定討論者を中心に議論し、最後に補足説明などをする。						
評価基準と評価方法	平常点（発表、質疑応答など授業への積極的参加）100%						
履修上の注意	教科書、文献の印刷物は毎回、必携。						
教科書	坂本真士・佐藤健二（編）「はじめての臨床社会心理学」2004 有斐閣 教材； 雑誌論文の文献5本（ネットよりダウンロードして持参）						
参考書							

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	社会心理学特論Ⅱ						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバー	MP5210
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	最新の社会心理学の文献研究						
授業の概要	ここ数年に発表された、社会心理学の雑誌論文（「社会心理学研究」、「心理学研究」）あるいは学会発表論文を読み、最新の社会心理学研究の動向を知る。						
到達目標	修士論文のテーマを決定するための、あるいは修士論文に引用するための資料、知見を得ることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、発表割り当て 第2回 個人発表と討論 (1) 社会心理学研究 2018年の論文 第3回 個人発表と討論 (2) 社会心理学研究 2017年の論文 第4回 個人発表と討論 (3) 社会心理学研究 2016年の論文 第5回 個人発表と討論 (4) 社会心理学研究 2015年の論文 第6回 個人発表と討論 (5) 社会心理学研究 2014年の論文 第7回 個人発表と討論 (6) 社会心理学研究 2013年の論文 第8回 個人発表と討論 (7) 心理学研究 2018年の論文 第9回 個人発表と討論 (8) 心理学研究 2017年の論文 第10回 個人発表と討論 (9) 心理学研究 2016年の論文 第11回 個人発表と討論 (10) 心理学研究 2015年の論文 第12回 個人発表と討論 (11) 心理学研究 2014年の論文 第13回 個人発表と討論 (12) 心理学研究 2013年の論文 第14回 個人発表と討論 (13) 心理学研究 2012年の論文 第15回 修士論文についての討論						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自分に関心を持つ社会心理学の領域について、様々な著書を読んで、理解を深めておく。						
授業方法	ゼミナール形式						
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加） 100%						
履修上の注意	発表の際には、ゼミ人数分のレジュメを用意すること						
教科書							
参考書							

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学研究法特論						
担当教員	土肥伊都子・藤本浩一・鳥居さくら					科目ナンバー	MP5080
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	心理学の研究方法の習得						
授業の概要	基礎系の心理学を中心に幅広い分野から研究例を紹介し、心理学での様々な研究方法について学ぶ。幅広い分野を扱うため3人の担当者によるオムニバス方式で行う。まず、心理学論文の読み方ガイドと発達障がいの査定や質的研究法に関する演習を行う。次いで、心理学の実験で得られるデータを対象とし、統計解析に関する基礎と使用方法についての講義、演習を行う。最後に、主に質問紙法で得られる調査データの統計処理の講義と、多変量解析を用いた文献の講読をする。						
到達目標	心理学論文を読み発表できる。発達障がいの心理査定法や質的研究法の知識を得る。心理学研究に用いられる統計処理解析法を適切に運用できる。多変量解析を理解でき、それを用いて書かれた文献を理解できる。						
授業計画	【第1回～第15回 鳥居担当】 第1回 心理学と統計 第2回 尺度と基礎統計量 第3回 度数分布表とヒストグラム 第4回 散布図とクロス集計 第5回 対応がない2条件のt検定（1）基礎 第6回 対応がない2条件のt検定（2）適用例 第7回 対応がある2条件のt検定 第8回 分散分析について 第9回 1要因被験者間計画の分散分析 第10回 1要因被験者内計画の分散分析 第11回 交互作用について 第12回 2要因被験者間計画の分散分析 第13回 2要因被験者内計画の分散分析 第14回 2要因混合計画の分散分析 第15回 論文における解析結果の表現 【第16回～第20回 藤本担当】 第16回 心理学論文の検索の仕方と読み方 第17回 論文紹介 第18回 発達障がいの心理査定の例 第19回 質的研究（1）KJ法 第20回 質的研究（2）その他 【第21回～第30回 土肥担当】 第21回 尺度構成、ネット調査のフォーム作成 第22回 推測統計（仮説検定）、ノンパラメトリック検定 第23回 t検定、分散分析、カイニ乗検定、グラフ作成 第24回 多変量解析の概要 第25回 重回帰分析の基礎 第26回 重回帰分析の研究例 第27回 因子分析 第28回 判別分析 第29回 推測統計学のまとめ 第30回 統計法全般のまとめ（多変量解析、実験計画）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の授業内容を復習し理解を確実なものにしておく。指示された論文を読み、発表に備える						
授業方法	講義、演習を組み合わせた授業						
評価基準と評価方法	授業での発表、提出物など平常点50%、まとめの発表ないしはレポート50%						

履修上の注意	欠席しないように心がけ、欠席する場合は担当教員に連絡すること。 藤本：fujimt[at]shoin.ac.jp オフィスアワーは、水・木曜日の12:10～13:00 鳥居：torii[at]shoin.ac.jp オフィスアワーは、木曜日の12:10～13:10 土肥：dohi[at]shoin.ac.jp オフィスアワーは、木曜日の12:10～13:10 ※[at]を@に置き換える。
教科書	使用しない
参考書	授業中に指示する

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバー	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文の作成						
授業の概要	自身が決定したテーマについて臨床心理学的な視点から検討し、修士論文としてまとめる。						
到達目標	(1) 研究計画に基づき、調査や実験を実施することができる。 (2) 得られたデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。 (3) 公聴会で修士論文の内容を分かりやすく発表することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 研究計画の検討(1)：研究計画書の作成 第3回 研究計画の検討(2)：研究計画書の見直し 第4回 研究計画の検討(3)：研究計画書の完成 第5回 データ収集の準備(1)：質問紙の作成 第6回 データ収集の準備(2)：質問紙の見直し 第7回 データ収集の準備(3)：調査手続きの確認 第8回 データ収集(1)：質問紙の配布 第9回 データ収集(2)：調査の進捗状況確認 第10回 データ収集(3)：質問紙の回収 第11回 データ分析(1)：データの入力 第12回 データ分析(2)：データの加工 第13回 データ分析(3)：統計処理(記述統計) 第14回 データ分析(4)：統計処理(推測統計) 第15回 データ分析(5)：結果の読み取り 第16回 データ分析(6)：結果のまとめ 第17回 修士論文の作成(1)：問題 第18回 修士論文の作成(2)：目的 第19回 修士論文の作成(3)：方法 第20回 修士論文の作成(4)：図表 第21回 修士論文の作成(5)：結果 第22回 修士論文の作成(6)：考察 第23回 修士論文の作成(7)：文献 第24回 修士論文の作成(8)：要約 第25回 論文の校正(1)：問題～結果の修正 第26回 論文の校正(2)：考察～要約の修正 第27回 論文の校正(3)：全体の見直し 第28回 公聴会での発表準備(1)：発表資料の作成 第29回 公聴会での発表準備(2)：発表資料の修正 第30回 公聴会での発表準備(3)：発表資料の完成						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各自の研究テーマに沿って、主体的に研究を進めること。						
授業方法	演習形式による授業と個別指導						
評価基準と評価方法	研究に取り組む姿勢(20%)と修士論文(60%)、公聴会での発表と質疑応答(20%)に基づき、総合的に評価する。						
履修上の注意	主体的に取り組むことが求められる。						

教科書	
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	木場 律志					科目ナンバー	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文を作成する。						
授業の概要	臨床心理学的援助（家族療法、ブリーフセラピー）の理論や技法について学び実践するとともに、この領域に関するテーマの研究を行い、修士論文としてまとめる。						
到達目標	1. 研究計画に基づき、調査や実験を実施することができる。 2. 得られたデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。 3. 修士論文の内容を分かりやすく発表することができる。						
授業計画	第1回 研究計画の検討① テーマ（問題）の確認 第2回 研究計画の検討② 目的の検討 第3回 研究計画の検討③ 仮説の設定 第4回 研究計画の検討④ 方法・手続きの立案 第5回 研究計画の検討⑤ 方法・手続きの決定 第6回 研究の実施 第7回 研究データの整理 第8回 研究データの集計 第9回 研究データの分析 第10回 研究データのまとめ 第11回 中間発表準備① 内容の検討 第12回 中間発表準備② 資料の作成 第13回 中間発表予行① 内容の再検討 第14回 中間発表準備③ 資料の修正 第15回 中間発表予行② 内容の確認 第16回 中間発表振り返り 第17回 修士論文の作成① 問題 第18回 修士論文の作成② 目的 第19回 修士論文の作成③ 方法・手続き 第20回 修士論文の作成④ 図表 第21回 修士論文の作成⑤ 結果 第22回 修士論文の作成⑥ 考察 第23回 修士論文の作成⑦ 文献 第24回 修士論文の作成⑧ 要約 第25回 論文の校正① 問題、目的、方法・手続き、図表、結果の修正 第26回 論文の校正② 考察、文献、要約の修正 第27回 発表準備① 資料の作成 第28回 発表予行① 内容の再検討 第29回 発表準備② 資料の修正 第30回 発表予行② 内容の確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について関連書や論文を読んで予習する。（学習時間：90分） 授業後学習：講義で取り上げた内容の要点を確認し、整理しておく。（学習時間：90分）						
授業方法	ゼミ形式を主とするが、適宜個別指導を併用する。						
評価基準と評価方法	・研究に取り組む姿勢20%：（到達目標1.に関する到達度の確認） ・修士論文60%（到達目標2.に関する到達度の確認） ・発表と質疑応答20%：（到達目標3.に関する到達度の確認）						
履修上の注意	自発的に質問や意見を出し、積極的に参加することを求める。						
教科書	なし						

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバー	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文執筆と研究発表						
授業の概要	「臨床心理学特別研究A／B」の内容を発展させ、修士論文を完成させます。研究内容を発表し、共有します。						
到達目標	研究内容を、学術論文、およびプレゼンにより明確に伝えることができる。 討議を通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 研究結果の整理(1) 第3回 研究結果の整理(2) 第4回 研究結果の考察(1) 第5回 研究結果の考察(2) 第6回 成果と課題の整理(1) 第7回 成果と課題の整理(2) 第8回 論文作成(1)(全体の構成) 第9回 論文作成(2) 第10回 論文作成(3)(問題の背景) 第11回 論文作成(4) 第12回 論文作成(5)(先行研究のまとめ) 第13回 論文作成(6) 第14回 論文作成(7)(目的と仮説) 第15回 論文作成(8) 第16回 論文作成(9)(研究方法) 第17回 論文作成(10) 第18回 論文作成(11)(結果) 第19回 論文作成(12) 第20回 論文作成(13)(考察) 第21回 論文作成(14) 第22回 論文作成(15)(体裁と全体の構成) 第23回 論文作成(16)(要旨) 第24回 論文作成(17) 第25回 研究発表(1)(発表資料作成) 第26回 研究発表(2) 第27回 研究発表(3)(発表資料改善) 第28回 研究発表(4) 第29回 学部4年生卒業研究発表 学部との合同ゼミ 第30回 学部3年生研究計画発表 学部との合同ゼミ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	修士論文執筆(90分×30回) 発表用資料作成(90分×15回) 基本的な活動は授業外に行い、授業では進捗状況の確認や修正を行います。 研究テーマに関する文献購読を積極的に行ってください。						
授業方法	演習、個別指導						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献：50%、発表・提出物：50%						
履修上の注意	「臨床心理学特別研究B」の内容をさらに発展させる授業です。 学外見学・研修を行うことがあります。						
教科書	なし						

参考書	適宜紹介します。
-----	----------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバー	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文を作成する。						
授業の概要	1年次に作成した研究計画書に沿ってデータの収集・分析を行い、結果の考察を進めて論文の作成を行う。同時に文献検討を行い、考察を深めていく。						
到達目標	1. 修士論文を完成させる。 2. 自分の研究の位置づけやオリジナリティ、今後の展望を要約して説明できる。 3. 自分の研究をわかりやすく説明・発表することができる。						
授業計画	第1回：研究計画の立案（1）研究計画書の発表準備 第2回：研究計画の立案（2）研究計画書の発表 第3回：研究計画の立案（3）研究計画書の修正（主に「問題と目的」） 第4回：研究計画の立案（4）研究計画書の修正（主に「方法と倫理的配慮」） 第5回：研究の実施（1）予備調査の実施 第6回：研究の実施（2）研究計画の最終修正 第7回：研究の実施（3）調査協力者への依頼の開始 第8回：研究の実施（4）調査時期の確定 第9回：研究の実施（5）調査の準備 第10回：研究の実施（6）調査の手順の確認 第11回：データ収集の状況確認（1）調査の実施と集計 第12回：データ収集の状況確認（2）データの探索的分析 第13回：データ収集の状況確認（3）データの追加収集と集計 第14回：データ収集の状況確認（4）データの2度目の探索的分析 第15回：データ収集の状況確認（5）データの追加収集と集計 第16回：結果の分析（1）素データの整理 第17回：結果の分析（2）記述統計の実施 第18回：結果の分析（3）推測統計の実施 第19回：結果の分析（4）分析結果の検討 第20回：結果の分析（5）再分析と結果の整理 第21回：論文執筆：問題と目的（1）執筆作業 第22回：論文執筆：問題と目的（2）推敲作業 第23回：論文執筆：方法（1）執筆作業 第24回：論文執筆：方法（2）推敲作業 第25回：論文執筆：結果（1）執筆作業 第26回：論文執筆：結果（2）推敲作業 第27回：論文執筆：考察（1）執筆作業 第28回：論文執筆：考察（2）推敲作業 第29回：論文執筆：全体のまとめと公聴会準備（1）パワーポイントの作成と発表 第30回：論文執筆：全体のまとめと公聴会準備（2）発表資料の修正						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：修士論文につながる文献や調査を自ら調べて、理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、次に読み解く文献を収集する。（学習時間：90分）						
授業方法	ゼミ形式を主とするが、適宜個別の指導を併用する。						
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加度・貢献度（20％）／修士論文の完成度（60％）／公聴会での発表内容・質疑応答（20％） ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし、欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え、改善点を提示する。						
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。						

教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバー	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	家族療法やブリーフセラピーの理論と実際を学び、実践する。家族療法やブリーフセラピーの領域に関するテーマを選んで研究し、修士論文としてまとめる。						
授業の概要	臨床心理学の総合的な学びの成果として修士論文を作成する。先行研究に関する文献研究を十分に行い、研究計画を練ったうえで、研究を実施する。結果を分析し、学術論文の形を整え、修士論文として完成させる。						
到達目標	1. 研究計画にもとづいて調査や実験を実施できる。 2. 結果をまとめ、修士論文を執筆して発表し、質疑応答に対応することができる。						
授業計画	第1回 修士論文テーマの検討 第2回 修士論文テーマの絞り込み 第3回 先行研究の探索 第4回 先行研究についての討論 第5回 研究計画（1）問題の設定 第6回 研究計画（2）問題についての討論 第7回 研究計画（3）目的の検討 第8回 研究計画（4）仮設の設定 第9回 研究計画（5）方法・手続きの立案 第10回 研究計画（6）対象についての討論 第11回 研究計画（7）中間発表準備 第12回 研究計画（8）中間発表予行 第13回 研究計画（9）中間発表振り返り 第14回 研究計画（10）最終討論 第15回 研究計画（11）協力者募集について 第16回 研究の実施 第17回 研究実施の振り返り 第18回 データの整理 第19回 データの集計 第20回 データの分析 第21回 記述統計について 第22回 記述統計の視覚化 第23回 記述統計のまとめ 第24回 推測統計について 第25回 推測統計の視覚化 第26回 推測統計のまとめ 第27回 結果の整理 第28回 考察の整理 第29回 論文の添削 第30回 修士論文発表準備指導						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学の関連書にて予習および発表の準備（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	1. 研究計画に関する討論 2. 調査もしくは実験の実施 3. 論文指導						
評価基準と評価方法	修士論文（70%）、質疑応答（30%）						
履修上の注意	自発的、積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。						
教科書	なし						

参考書	授業中に紹介する
-----	----------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	中村 博文					科目ナンバー	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文研究						
授業の概要	自身が決定したテーマについて研究し、修士論文としてまとめる。						
到達目標	自身が決定したテーマについて、適切な方法で研究を進めることができる。 形式に則った修士論文を作成できる。 公聴会において修士論文研究の発表を行い、質疑応答を行うことができる。						
授業計画	#01：研究テーマに関する文献レビュー (1) 報告者 1 の研究テーマについての報告と検討 1 #02：研究テーマに関する文献レビュー (2) 報告者 2 の研究テーマについての報告と検討 1 #03：研究テーマに関する文献レビュー (3) 報告者 1 の研究テーマについての報告と検討 2 #04：研究テーマに関する文献レビュー (4) 報告者 2 の研究テーマについての報告と検討 2 #05：研究テーマに関する文献レビュー (5) 報告者 1 の研究テーマについての報告と検討 3 #06：研究テーマに関する文献レビュー (6) 報告者 2 の研究テーマについての報告と検討 3 #07：研究テーマに関する文献レビュー (7) 各報告者による報告のまとめ #08：研究計画の検討 (1) 報告者 1 による研究計画の報告と検討 1 #09：研究計画の検討 (2) 報告者 2 による研究計画の報告と検討 1 #10：研究計画の検討 (3) 報告者 1 による研究計画の報告と検討 2 #11：研究計画の検討 (4) 報告者 2 による研究計画の報告と検討 2 #12：研究計画の検討 (5) 報告者 1 による研究計画の報告と検討 3 #13：研究計画の検討 (6) 報告者 2 による研究計画の報告と検討 3 #14：研究計画の検討 (7) 報告者 1 による研究計画の報告と検討 4 #15：研究計画の検討 (8) 報告者 2 による研究計画の報告と検討 4 #16：研究結果の整理と分析 (1) 報告者 1 によるデータ分析の結果報告 1 #17：研究結果の整理と分析 (2) 報告者 2 によるデータ分析の結果報告 1 #18：研究結果の整理と分析 (3) 報告者 1 によるデータ分析の結果報告 2 #19：研究結果の整理と分析 (4) 報告者 2 によるデータ分析の結果報告 2 #20：研究結果の整理と分析 (5) 報告者 1 によるデータ分析の結果報告 3 #21：研究結果の整理と分析 (6) 報告者 2 によるデータ分析の結果報告 3 #22：研究結果の整理と分析 (7) 報告者 1 によるデータ分析の結果報告 4 #23：研究結果の整理と分析 (8) 報告者 2 によるデータ分析の結果報告 4 #24：研究結果の整理と分析 (9) 各報告者によるデータ分析のまとめ #25：修士論文の作成 (1) 報告者 1 による修士論文報告 1 #26：修士論文の作成 (2) 報告者 2 による修士論文報告 1 #27：修士論文の作成 (3) 報告者 1 による修士論文報告 2 #28：修士論文の作成 (4) 報告者 2 による修士論文報告 2 #29：公聴会資料の作成 (1) 公聴会資料の作成 #30：公聴会資料の作成 (2) 公聴会資料の完成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各自の研究テーマに沿って、研究を進めること。						
授業方法	演習形式。 研究の進行に沿って、経過報告を行う。						
評価基準と評価方法	研究へのコミットの程度（20%）、および作成された修士論文（60%）、公聴会での発表と質疑応答（20%）に基づいて、総合的に評価する。						
履修上の注意	原則として欠席は認めない。 授業計画は、受講者が2名の場合を想定している。また、この科目はゼミ科目である。したがって、受講者数や各受講者数の研究の進捗によって、授業計画の内容は変化する。						

教科書	なし。
参考書	指導の過程において、適時紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバ－	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時間	月曜5	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文の作成						
授業の概要	心理学の専門的な学びの実践として修士論文を作成する。先行研究を十分に検討してテーマ設定するだけでなく、心理学の学術雑誌の専門論文の形式、内容を研究して参考にしながら、学術論文の体裁を備えた修士論文の作成を目指す。調査・実験にあたって配慮すべき倫理的問題について検討することも重要な点である。あわせて、プレゼンテーション技術の習得を目指す。						
到達目標	先行研究を踏まえた上で心理学の研究を計画できる。 適切な研究方法を立案し、実施できる。 心理分野の学術論文に沿った形式にまとめることができる。						
授業計画	第1回 修士論文テーマの設定 第2回 先行研究リスト作成 第3回 特に注目すべき先行研究 第4回 先行研究の総括 第5回 修士論文目的の設定 第6回 修士論文仮説の設定 第7回 先行研究における研究方法の検討 第8回 研究倫理の検討 第9回 研究方法の設定 第10回 中間報告の作成準備 第11回 中間報告の作成 第12回 中間報告 第13回 中間報告に基づく研究目的、方法の調整 第14回 研究の実施 第15回 研究の追加実施 第16回 データ処理方法の確認 第17回 データ集計 第18回 データ分析 第19回 基本的統計 第20回 統計的検定 第21回 結果のグラフ化（１） 第22回 結果のグラフ化（２） 第23回 結果の文章化（１） 第24回 結果の文章化（２） 第25回 考察（１） 第26回 考察（２） 第27回 体裁のチェック 第28回 修士論文の仕上げ 第29回 修士論文発表内容の検討 第30回 修士論文公聴会の準備						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	先行研究の収集、研究の実施、分析、論文執筆、発表準備						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	課題の提出など平常点20%、論文60%、発表20%						
履修上の注意	主体的な取り組みが必要						

教科書	使用しない
参考書	

授業のテーマ	心理に関する支援を要する者等に対する支援の実践。
授業の概要	実習に参加するための基本的な知識、技能、倫理を身につける。 また、学内施設（神戸松蔭こころのケア・センター）ならびに学外施設において、実習施設の実習指導者による指導を受けながら、臨床心理学的な支援の実践について学ぶ。
到達目標	(1) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能を身につける。 ①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援 (2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成をすることができる。 (3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチができる。 (4) 他職種連携及び地域連携ができる。 (5) 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解をもてる。
授業計画	・前期 #01：オリエンテーションー心理実践実習Ⅰで何を学ぶか #02：実習生としての基本的な態度、心得 #03：他職種との連携とチームアプローチ #04：公認心理師としての職業倫理と法的義務 #05：実習領域の特徴①：保健医療領域 #06：実習施設の特徴②：福祉領域 #07：実習施設の特徴③：教育領域 #08：実習施設の特徴④：司法・犯罪領域 #09：実習施設の特徴⑤：産業・労働領域 #10：実習施設の特徴⑥：学内施設（神戸松蔭こころのケア・センター） #11：学外施設における実習（1） #12：学外施設における実習（2） #13：学外施設における実習（3） #14：学外施設における実習（4） #15：学外施設における実習（5） ・後期 #16：学内施設ならびに学外施設における実習（1） #17：学内施設ならびに学外施設における実習（2） #18：学内施設ならびに学外施設における実習（3） #19：学内施設ならびに学外施設における実習（4） #20：学内施設ならびに学外施設における実習（5） #21：学内施設ならびに学外施設における実習（6） #22：学内施設ならびに学外施設における実習（7） #23：学内施設ならびに学外施設における実習（8） #24：学内施設ならびに学外施設における実習（9） #25：学内施設ならびに学外施設における実習（10） #26：学内施設ならびに学外施設における実習（11） #27：学内施設ならびに学外施設における実習（12） #28：学内施設ならびに学外施設における実習（13） #29：学内施設ならびに学外施設における実習（14） #30：学内施設ならびに学外施設における実習（15）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：実習に先だって、支援の対象者や支援の内容に関して文献等で学習しておくこと。 また、毎回の実習の後には実習ノートを作成すること。
授業方法	講義、演習、実習。
評価基準と評価方法	実習への参加態度（50%）、各種報告書や作成資料（50%）により評価する。
履修上の注意	実習を行う施設はいずれも実際の業務を行っている施設であり、そこで実際の支援が行われていることに留意すること。 学外施設への交通費については、自己負担となる。

教科書	なし。
参考書	必要に応じて、適時紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	児童臨床特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバー	MP5260
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの福祉現場において生じる様々な問題に関して、心理臨床の基本的な理論や福祉サービスを学ぶと共に、事例から実際のやりとりを学ぶ						
授業の概要	虐待や生得的な障害、その他の様々な心理的な症状など、子どもや家族を巡る福祉現場における心理社会的課題やその支援方法について、主に力動的な心理療法の観点からプレイセラピーの理論や技法、理解の仕方を学ぶ。加えて、福祉サービスの活用についても学ぶ。その際に、臨床事例に関する資料を活用し、実際の事例をどのようにして見立て、方針を構築するのかということを学ぶ。						
到達目標	1. 福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 2. 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 3. 子どもの臨床事例に対する見立てと方針を構築する姿勢を持つことができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 精神力動的発達理論について 第2回：臨床事例から学ぶ ①実際のやりとりの様子を見てみよう 第3回：クライン派理論の基礎を学ぶ 第4回：臨床事例から学ぶ ②クライン派の事例を読む 第5回：ウィニコットの理論を学ぶ 第6回：臨床事例から学ぶ ③ウィニコットの事例を読む 第7回：発達障害に関する理論を学ぶ 第8回：臨床事例から学ぶ ④自閉スペクトラム症の事例を読む 第9回：母子臨床に関する理論を学ぶ 第10回：臨床事例から学ぶ ⑤セラプレイの事例を学ぶ 第11回：子どもの臨床を支える親面接を学ぶ 第12回：事例を見立てる 第13回：事例の見立てから方針を考える 第14回：事例の中で関わり合いながら観察する 第15回：子どもの心理臨床とプレイセラピーについての振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：事前に提供する配布資料すべてに目を通す。加えて担当回にはそれらの資料の要約や補足情報を収集し資料の作成を行う。（学習時間：90分） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、授業や発表の振り返りを行うとともに、授業内で紹介された追加の文献や資料に目を通す。（学習時間：90分）						
授業方法	講義形式と演習形式を併用する。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度：30％／期末レポート（70％） ※授業への参加・貢献度は授業時間内での発表やディスカッション、感想・質問シートの記入を元に算定する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、評価を伝え、改善点を提示する。						
履修上の注意	発表回数は履修生の人数に応じて適宜スケジュールを変更して実施する。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する。						
参考書	D.W. ウィニコット（著）橋本雅雄（翻訳）大矢 泰士（翻訳）（2011）子どもの治療相談面接．岩崎学術出版社 ISBN：978-4753310364 木部則雄（2006）こどもの精神分析 クライン派・対象関係論からのアプローチ．岩崎学術出版社 ISBN：978-4753306091						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	精神医学特論（保健医療分野に関する理解と支援の展開）						
担当教員	若栄 徳彦					科目ナンバー	MP5220
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床家が身につけるべき精神医学的知識・見方を学ぶ。						
授業の概要	精神医学という分野が網羅する事柄は膨大だが、可能な限り心理臨床家にとって役立つ形で、精神医学的知識・見方を身につけられるよう、講義内容を提示したいと考える。						
到達目標	精神医学的知識・精神症状学・治療・各精神疾患・司法精神医学を理解できるようになる。精神医学の基本的理解、心理臨床に生かすことができる。						
授業計画	以下の全ての項目を扱う事は困難なので、いくつかの項目を選び、講義する予定である。 1. 総論 第1回 ①精神症状学 第2回 ②神経心理学d 第3回 ③睡眠と脳波 第4回 ④心理検査と評価尺度 第5回 ⑤治療 2. 各論 第6回 ①症状性を含む器質性精神障害 第7回 ②てんかん 第8回 ③物質関連障害 第9回 ④内因性の精神障害 第10回 ⑤神経症 第11回 ⑥生理的及び身体的要因に関連した障害 第12回 ⑦パーソナリティ障害 第13回 ⑧小児期・青年期の精神障害 1 第14回 ⑨小児期・青年期の精神障害 2 第15回 ⑩精神医学と社会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実践に勝る修行はない。心理実習を通じて精神医学的臨床の理解を深めて頂きたい。実習の中でどのような授業外の学習が必要か、自分なりに気づいていくビジョンクエストを進めることである。						
授業方法	講義を中心とする。必要に応じて配布資料を用いる。						
評価基準と評価方法	授業中の姿勢10・参加度10・レポート80の割合で評価する。						
履修上の注意	授業内容に関する質問の受付先についてはe-mailで。メールアドレスについては後日連絡。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知神経心理学特論Ⅰ						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	MP5150
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	視覚認知過程における行動と脳の関係を考察する。						
授業の概要	視覚認知の発達段階をとおして変化する脳のはたらきや心理社会的スキルを知る。 人の行動がどのように生体の変化と関係しているのかを文献購読もまじえ考察する。						
到達目標	人の行動を生理学的・神経心理学的側面から解説することができる。 心理的要因が関係する行動の事例を挙げ、それについて自分の考えを述べることができる。						
授業計画	1. 授業の紹介 2. 視覚の発達－概説－ 3. 視覚の発達－発表－ 4. 視覚の発達－討論－ 5. 環境との相互作用－概説－ 6. 環境との相互作用－発表－ 7. 環境との相互作用－討論－ 8. 脳のはたらきと視覚－概説－ 9. 脳のはたらきと視覚－発表－ 10. 脳のはたらきと視覚－討論－ 11. 脳機能と行動－概説－ 12. 脳機能と行動－発表－ 13. 脳機能と行動－討論－ 14. 脳機能と行動－批評－ 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：講義のテーマに関する文献を読み、まとめ、理解を深めておく。発表の際にはレジメをあらかじめ作成する。（学習時間：90分） 授業後学習：授業で扱ったテーマについて、整理、確認し、自分の考えを深め、発展させる。（学習時間：90分）						
授業方法	講義、文献購読、発表、討論						
評価基準と評価方法	発表(60%)、レポート(40%)						
履修上の注意	積極的な授業への参加を期待する。						
教科書	適宜指示する。						
参考書	脳科学からみる子どもの心の育ち：認知発達のルーツをさぐる ミネルヴァ書房 ISBN：978-4623067787 いやされない傷―児童虐待と傷ついていく脳 診断と治療社 ISBN：978-4787819123 視覚脳が生まれる―乳児の視覚と脳科学 北大路書房 ISBN：978-4762824685						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知神経心理学特論Ⅱ						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	MP5160
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	顔の認知過程における行動と脳の関係を考察する。						
授業の概要	顔認知を中心として認知心理学と脳科学および神経科学とが関連した研究を取り上げ、討論することにより理解を深める。						
到達目標	顔認知過程を心理学的および生理学的側面から解説することができる。 顔認知に関わる問題点を挙げることができる。 顔認知に関わる問題点に対して自分の考えを述べることができる。						
授業計画	1. 授業の紹介 2. 視知覚における顔認知の特徴(1)-概説- 3. 視知覚における顔認知の特徴(2)-発表- 4. 視知覚における顔認知の特徴(3)-討論- 5. 顔の行動への影響(1)-概説- 6. 顔の行動への影響(2)-発表- 7. 顔の行動への影響(3)-討論- 8. 顔の印象と特徴(1)-発表- 9. 顔の印象と特徴(2)-討論- 10. 顔認知の神経機構(1)-概説- 11. 顔認知の神経機構(2)-発表- 12. 顔認知の神経機構(3)-討論- 13. 顔認知の障害(1)-発表- 14. 顔認知の障害(2)-討論- 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：講義のテーマに関する文献を読み、まとめ、理解を深めておく。発表の際にはレジメをあらかじめ作成する。（学習時間：90分） 授業後学習：授業で扱ったテーマについて、整理、確認し、自分の考えを深め、発展させる。（学習時間：90分）						
授業方法	発表、文献購読、討論						
評価基準と評価方法	発表(60%)、レポート(40%)						
履修上の注意	積極的な授業への参加を期待する。						
教科書	適宜指示する。						
参考書	顔を科学する：適応と障害の脳科学 東京大学出版会 ISBN：978-4130111379						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知発達心理学特論Ⅰ／認知心理学特論Ⅰ						
担当教員	久津木 文					科目ナンバー	MP5130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの認知の発達						
授業の概要	子どもの言語と認知の発達についての基礎的な文献をまとめた教科書を講読し、実験・調査についての理解を深める。						
到達目標	子どもの言語と認知の発達についての基礎的な知識を修得し、実験・調査についての手法を知ることができる。先行研究の流れをつかむことは最新の研究を理解するのに役立つ。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 初期のカテゴリ表象と概念 1 概念 第3回 初期のカテゴリ表象と概念 2 乳児 第4回 初期の語彙 1 初語 第5回 初期の語彙 2 制約 第6回 脳と認知の発達 1 可塑性 第7回 脳と認知の発達 2 言語本能 第8回 子どもの文法発達の理解 1 語を組み合わせ 第9回 子どもの文法発達の理解 2 経路理論 第10回 幼児期における実行機能 1 認知心理 第11回 幼児期における実行機能 2 発達 第12回 心の理解 1 発達 第13回 心の理解 2 影響要因 第14回 興味の文献の発表 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	メインに扱うテキストのみならず、関連する引用文献、または最新の文献にも興味を広げ読んでほしい。 授業前学習：文献講読（3時間以上）。 授業後学習：関連する研究について調べる（2時間以上）。						
授業方法	ゼミナール方式、文献講読・発表						
評価基準と評価方法	授業態度（40％）、課題（60％） 授業態度：授業中のディスカッション等授業への貢献を総合的に評価する。 課題：発表及び発表資料を総合的に評価する。						
履修上の注意	受講生それぞれが担当部分の文献を読み発表を行う。 発表資料としてレジュメを受講生全員分用意すること。 履修者の希望や興味・研究の方向性に応じて扱う文献を変更する可能性があるため、興味がある者は事前・もしくは1回目の授業で相談してください。						
教科書	適宜紹介する。						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知発達心理学特論Ⅱ／認知心理学特論Ⅱ						
担当教員	久津木 文					科目ナンバー	MP5140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの認知の発達						
授業の概要	子どもの認知全般の発達は言葉の発達と深く関連している。認知発達についての基礎的な文献をまとめた教科書を講読し、実験・調査についての理解を深める。						
到達目標	子どもの言語と認知の発達についての基礎的な知識を修得し、実験・調査についての手法を知ることができる。先行研究の流れをつかむことは最新の研究を理解するのに役立つ。						
授業計画	1. 新生児期 2. 感覚・知覚 3. 気質 4. 幼児の認知 5. 言語 6. 人間関係 7. 自己 8. 遊び・集団生活 9. 児童の認知 10. 学校生活 11. 社会認識 12. 障がいと問題行動 13. 論文発表 1 14. 論文発表 2 15. 論文発表 3						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	メインに紹介するもの以外にも、関連する引用文献、または最新の文献にも興味を広げ読んでほしい。 授業前学習：文献講読（3時間以上）。 授業後学習：関連する研究について調べる（2時間以上）。						
授業方法	ゼミナール方式、文献講読・発表						
評価基準と評価方法	授業態度（40％）、課題（60％） 授業態度：授業中のディスカッション等授業への貢献を総合的に評価する。 課題：発表及び発表資料を総合的に評価する。						
履修上の注意	受講生それぞれが担当部分の文献を読み発表を行う。 発表資料としてレジュメを受講生全員分用意すること。 履修者の希望や興味・研究の方向性に応じて扱う文献を変更する可能性があるので、興味がある者は事前・もしくは1回目の授業で相談してください。						
教科書	適宜紹介する。						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特殊研究Ⅰ／発達心理学特殊研究						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバー	MP5170
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	育児ストレスとストレスコーピング						
授業の概要	少子化・核家族化が進行した今日、親の育児不安や虐待、子どもの育ちのアンバランスさが問題となっている。本講義では、親の育児ストレス、ストレスコーピング、子育てに対するソーシャルサポートに関する研究の動向と課題を明らかにし、親子のアイデンティティ形成の視点から、発達臨床的支援のあり方について考える。						
到達目標	育児ストレスの背景、保護者の心理、親子関係、子育て支援のありかたについて学び、子育て支援のあり方とともに、その成果を研究する視点を学ぶことが出来る。						
授業計画	第1回 現代社会と子育て・子育て 第2回 子育てに関する発達心理学の諸理論 第3回 乳幼児期の子どもの発達と親の課題 第4回 親の養育性形成とその発達―「親になること」と「親をすること」 第5回 育児ストレスの構造と規定要因 第6回 ストレスコーピングとソーシャルサポート（１）―夫婦と家族の関係 第7回 ストレスコーピングとソーシャルサポート（２）―地域の人材と資源 第8回 支援の計画と実際（１）―課題とニーズの明確化 第9回 支援の計画と実際（２）―カウンセリングと心理療法（開発的支援・予防的支援・治療的支援） 第10回 支援の計画と実際（３）―ケース・ワーク（事例研究） 第11回 事例検討（１）―保護者の子育て不安と育児放棄 第12回 事例検討（２）―保護者の精神疾患 第13回 事例検討（３）―さまざまな課題を抱えた子どもとその保護者 第14回 子ども支援センターの臨床活動―臨床家の役割 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	子育て支援現場の見学						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	小レポート・プレゼンテーション50点 レポート50点						
履修上の注意	論文購読等、主体的な取り組みを望む。						
教科書	プリント配布						
参考書	寺見陽子編「子育て・子育て支援学」保育出版（2011） 藤崎真知代ほか「育児・保育の現場での発達と支援」ミネルバ書房 2003 藤崎真知代・大日向雅美編著「育児のなかでの臨床発達支援」ミネルバ書房（2011）						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特論Ⅰ						
担当教員	久津木 文					科目ナンバー	MP5090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	発達心理学（乳幼児期）についての演習						
授業の概要	乳幼児期におけるさまざまな能力の発達について、主に、心の理論や社会性の発達についての代表的な実験論文を最終的には読む予定であるが、まずは基礎的な知識を身に着けることを中心とするので、学部時代に発達心理学を履修していない者でも履修することが可能である。						
到達目標	まずは発達心理学の基礎的な知識をつけることができ、専門的文献を読めるようになる。専門分野における論文の書き方や理論を獲得できる。						
授業計画	第1回 導入・発表担当割り当て 第2回 心の理論の仕組み 第3回 心の理論の認知的構造 第4回 乳幼児期の心の理論 第5回 心の理論と感情理解 第6回 心の理論の学習性 第7回 自閉症と心の理論 第8回 自閉症児と情動 第9回 自閉症児の心の読み取り 第10回 自閉症児の善悪判断 第11回 心の理論と文化 第12回 発達を考える 第13回 個人の興味の発表 幼児期～児童期 第14回 個人の興味の発表 青年期～成人期 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	メインに扱うテキストのみならず、関連する引用文献、または最新の文献にも興味を広げ読んでいってほしい。 授業前学習：文献講読（3時間以上）。 授業後学習：関連する研究について調べる（2時間以上）。						
授業方法	発表、論文講読、ディスカッション						
評価基準と評価方法	授業態度（40％）、課題（60％） 授業態度：授業中のディスカッション等授業への貢献を総合的に評価する。 課題：発表及び発表資料を総合的に評価する。						
履修上の注意	2～12では、担当者は事前に文献を読み、レジュメを用意して発表をし、ディスカッションをするスタイル。 13. & 14. では興味のある研究論文や文献を個別に調べ読んだものを発表する。文献の発表担当者以外も論文を読んでディスカッション（質問やコメント）をする。発表担当者が欠席をする場合は早めに連絡をすること 発表担当者は授業までにレジュメを人数分用意すること。 受講者の興味や研究の方向性に依じて、扱う文献を変更する可能性がある。希望者は事前、もしくは1回目の授業で相談してください。まずはかなり基本的な発達の書籍を講読する予定です。						
教科書	指定しない						
参考書	授業で紹介する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目							
科目名	発達心理学特論Ⅱ							
担当教員	久津木 文					科目ナンバー	MP5100	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	発達心理学についての演習							
授業の概要	発達心理学特論Ⅰで読んだ文献をもとにした比較的新しい論文を読むことで 学術論文の探し方や理解のしかたを学ぶのが目的である。個別に気になる・興味のあるテーマに沿って、古い文 献から新しい文献を探り、めばしいものを講読し、その内容を理解して発表をする。最終的には、自分が興味を もったテーマについてすでに何がわかっており、最新動向はなにかについて一貫性をもってまとめられるよう になることを目指す。							
到達目標	発達心理学における専門的文献を読めるようになる。 専門分野における論文の書き方や理論を習得する。							
授業計画	第1回 導入・発表担当割り当て 第2回 文献講読（先行研究）・発表（1）乳児期 第3回 文献講読（先行研究）・発表（2）幼児期 第4回 文献講読（先行研究）・発表（3）児童期 第5回 論文講読（先行研究）（1）認知発達 第6回 論文講読（先行研究）（2）社会性発達 第7回 論文講読（先行研究）（3）言語発達 第8回 論文講読（先行研究）（4）発達障がい 第9回 論文講読（最新研究）（1）認知発達 第10回 論文講読（最新研究）（2）社会性発達 第11回 論文講読（最新研究）（3）言語発達 第12回 論文講読（最新研究）（4）発達障がい 第13回 個人の興味・発表 認知発達・社会性発達 第14回 個人の興味・発表 言語発達・発達障害 第15回 総括							
授業外における 学習（準備学習 の内容・時間）	メインに扱うテキストのみならず、関連する引用文献、または最新の文献にも興味を広げ読んでほしい。 授業前学習：文献講読（3時間以上）。 授業後学習：関連する研究について調べる（2時間以上）。							
授業方法	発表、論文講読、ディスカッション							
評価基準と 評価方法	授業態度（40％）、課題（60％） 授業態度：授業中のディスカッション等授業への貢献を総合的に評価する。 課題：発表及び発表資料を総合的に評価する。							
履修上の注意	2～12では、担当者は事前に文献を読み、レジュメを用意して発表をし、ディスカッションをするスタイル。 13. & 14. では興味のある研究論文や文献を個別に調べ読んだものを発表する。文献の発表担当者以外も論 文を読んでディスカッション（質問やコメント）をする。発表担当者が欠席をする場合は早めに連絡をすること 発表担当者は授業までにレジュメを人数分用意すること。 受講者の興味や研究の方向性に応じて、扱う文献を変更する可能性がある。希望者は事前、もしくは1回目の授 業で相談してください。まずはかなり基本的な発達の書籍を講読する予定です。							
教科書	指定しない							
参考書	授業で紹介する							

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバー	MP532A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文のテーマの決定						
授業の概要	喪失やトラウマおよびその関連領域における各自の研究テーマについて、文献研究を通して理解を深める。 最終的には、各自の興味に沿って修士論文のテーマを絞り込むことを目的とする。						
到達目標	(1) 喪失やトラウマおよびその関連領域における各自の研究テーマと関連のある文献を読み、要点をまとめて整理することができる。 (2) 修士論文のテーマを絞り込むことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 文献発表とディスカッション (1)：先行研究の収集 第3回 文献発表とディスカッション (2)：先行研究の収集 第4回 文献発表とディスカッション (3)：先行研究のまとめ 第5回 文献発表とディスカッション (4)：先行研究のまとめ 第6回 文献発表とディスカッション (5)：研究テーマの明確化 第7回 文献発表とディスカッション (6)：研究テーマの明確化 第8回 文献発表とディスカッション (7)：先行研究の収集 第9回 文献発表とディスカッション (8)：先行研究の収集 第10回 文献発表とディスカッション (9)：先行研究のまとめ 第11回 文献発表とディスカッション (10)：先行研究のまとめ 第12回 文献発表とディスカッション (11)：研究テーマの明確化 第13回 文献発表とディスカッション (12)：研究テーマの明確化 第14回 文献発表とディスカッション (13)：研究計画 第15回 文献発表とディスカッション (14)：研究計画						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各自の研究テーマと関連のある文献を熟読し、レジュメを作成すること。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	授業への参加度 (50%) と発表 (50%) により総合的に評価する。						
履修上の注意	主体的に取り組むことが求められる。						
教科書							
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	木場 律志					科目ナンバー	MP532A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学的援助（家族療法、ブリーフセラピー）の基礎的な理論や技法について学ぶとともに、修士論文作成に向けて、臨床心理学的研究のテーマを模索する。						
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーに関する理論や技法について、文献やロールプレイを通して学びつつ、この領域における先行研究を概観することを通して、自身の研究テーマを模索する。						
到達目標	1. 家族療法やブリーフセラピーに関する基礎的な理論や技法について説明できる。 2. 臨床心理学的研究の中から自身の関心のあるテーマを取り上げ、発表することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 講義のすすめ方 第2回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション① 家族療法総論 第3回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション② 多世代派家族療法 第4回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション③ 構造派家族療法 第5回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション④ コミュニケーション派家族療法 第6回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑤ システムズアプローチ 第7回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑥ 家族療法まとめ 第8回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑦ ブリーフセラピー総論 第9回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑧ 解決志向アプローチ 第10回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑨ 社会構成主義心理療法総論 第11回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑩ ナラティブ・セラピー 第12回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑪ コラボレイティヴ・アプローチ 第13回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑫ リフレクティング・プロセス 第14回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑬ ブリーフセラピーまとめ 第15回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑭ まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う家族療法やブリーフセラピーの関連書や論文を読んで予習する。（学習時間：90分） 授業後学習：講義で取り上げた内容の要点を確認し、整理しておく。（学習時間：90分）						
授業方法	ゼミ形式で講義、演習、発表、グループディスカッション、ロールプレイなどを行う。						
評価基準と評価方法	・発表50%：（到達目標2.に関する到達度の確認） ・質疑応答25%：（到達目標1.に関する到達度の確認） ・討論25%：（到達目標1.に関する到達度の確認）						
履修上の注意	自発的に質問や意見を出し、積極的に参加することを求める。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバー	MP532A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けての研究						
授業の概要	臨床心理学（特に精神分析、対象関係論）に関する文献を購読し、興味のある課題と関連づけ、研究計画を作成する。						
到達目標	精神分析的な臨床と研究の進め方を学び言語化できる。 修士論文の研究テーマと仮説モデルを明確化できる。 討議を通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 文献研究(興味ある課題に関する先行研究のまとめ)(1) 第3回 文献研究(興味ある課題に関する先行研究のまとめ)(2) 第4回 文献研究(先行研究の成果と課題の明確化)(1) 第5回 文献研究(先行研究の成果と課題の明確化)(2) 第6回 文献研究(理論的背景のまとめ)(1) 第7回 文献研究(理論的背景のまとめ)(2) 第8回 仮説モデルの作成(1) 第9回 仮説モデルの作成(2) 第10回 研究計画書の作成(1) 第11回 研究計画書の作成(2) 第12回 研究計画書の作成(3) 第13回 研究計画書の作成(4) 第14回 研究計画発表(1) 第15回 研究計画発表(2)						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	討議用資料作成（90分×16回） 研究計画書作成（90分×8回） 発表用資料作成（90分×4回） 基本的な活動は授業外に行い、授業では進捗状況の確認や修正を行います。 精神分析(特に対象関係論)や興味ある課題に関する文献購読を積極的に行ってください。						
授業方法	演習、個別指導						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献：50%、発表・提出物：50%						
履修上の注意	学外見学・研修を行うことがあります。						
教科書	なし						
参考書	W.R. ビオン著／メッド・ハフシ監訳(2016)『集団の経験』金剛出版 メッド・ハフシ(2003)『ビオンへの道標』ナカニシヤ出版 その他、適宜紹介します。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバー	MP532A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けて、論文の作成法を学ぶと共に自身の研究テーマを探索する。						
授業の概要	主として子どもや子育て、親支援、障碍（がい）に関連した臨床心理学領域における学術論文の形式や読み方について理解を深め、修士論文の研究に向けてテーマを探す。						
到達目標	1. 臨床心理学の研究論文を読み解き、発表することができる。 2. 修士論文のテーマを選定することができる。 3. 修士論文のテーマに関連した課題性を提示することができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 自己紹介と発表の割り当て 第2回：文献を基にした発表とディスカッション（1）卒業研究の発表 第3回：文献を基にした発表とディスカッション（2）卒業研究の再検討 第4回：文献を基にした発表とディスカッション（3）発展的研究のテーマ検討 第5回：文献を基にした発表とディスカッション（4）テーマに関する文献検討 第6回：文献を基にした発表とディスカッション（5）キーワードの探索と知識整理 第7回：文献を基にした発表とディスカッション（6）キーワードに関する文献検討 第8回：文献を基にした発表とディスカッション（7）関連概念の探究 第9回：文献を基にした発表とディスカッション（8）調査方法の探究 第10回：文献を基にした発表とディスカッション（9）複数のキーワードの選出 第11回：文献を基にした発表とディスカッション（10）研究アイデアの生成 第12回：研究テーマの設定と課題性の検討（1）修士論文用のキーワードの選定 第13回：研究テーマの設定と課題性の検討（2）キーワードに関する追加の文献収集 第14回：研究テーマの設定と課題性の検討（3）キーワードの修正と再検討 第15回：授業の総括と夏休みの課題について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：修士論文につながる文献や調査を自ら調べて、理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、次に読み解く文献を収集する。（学習時間：90分）						
授業方法	ゼミ形式。						
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50％／発表・提出物（50％） ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし、欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え、改善点を提示する。						
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。						
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバー	MP532A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学研究の基礎について学ぶ。また、心理援助の基本について学ぶとともに、家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの基礎理論について学ぶ。						
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーの領域に関する理論的枠組みや技法について、文献やロールプレイを通して学ぶ。また、この領域における研究について概観し、自らの研究テーマを模索する。						
到達目標	1. 家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの理論や技法について説明できる。 2. 関心の領域についての臨床心理学の理論について説明でき、研究計画を立てるために必要な文献を読み、発表することができる。						
授業計画	第1回 授業のすすめ方（ガイダンス） 第2回 臨床心理学における研究方法について 第3回 臨床心理学研究の実際（家族療法）（1） 第4回 臨床心理学研究の実際（システム理論）（2） 第5回 臨床心理学研究の実際（ジョイニング）（3） 第6回 臨床心理学研究の実際（MRI理論）（4） 第7回 臨床心理学研究の実際（リフレーミング）（5） 第8回 臨床心理学研究の実際（ブリーフセラピー）（6） 第9回 臨床心理学研究の実際（ナラティブセラピー）（7） 第10回 臨床心理学研究の実際（社会構成主義心理療法）（8） 第11回 臨床心理学研究の実際（量的研究）（9） 第12回 臨床心理学研究の実際（実験研究）（10） 第13回 臨床心理学研究の実際（調査研究）（11） 第14回 臨床心理学研究の実際（効果研究）（12） 第15回 臨床心理学研究の実際（質的研究）（13）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学のみならず、家族療法やブリーフセラピーの関連書や論文にて予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ						
評価基準と評価方法	発表（60%）、質疑応答（20%）、討論（20%）						
履修上の注意	ロールプレイや発表をはじめ、自発的積極的参加が望まれる。						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	中村 博文					科目ナンバー	MP532A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文研究テーマの模索						
授業の概要	様々な事象について、それを臨床心理学的な視点からどのように把握するかを学ぶ。また、修士論文研究のテーマを模索する。						
到達目標	関心のある心理学的現象に関わる先行研究を取り上げ、発表することができる。 修士論文研究の、およそその方向性を決められる。						
授業計画	#01：関心のある領域についての文献レビューと討論(1) 報告者 1 による報告と討論 1 #02：関心のある領域についての文献レビューと討論(2) 報告者 2 による報告と討論 1 #03：関心のある領域についての文献レビューと討論(3) 報告者 1 による報告と討論 2 #04：関心のある領域についての文献レビューと討論(4) 報告者 2 による報告と討論 2 #05：関心のある領域についての文献レビューと討論(5) 報告者 1 による報告と討論 3 #06：関心のある領域についての文献レビューと討論(6) 報告者 2 による報告と討論 3 #07：関心のある領域についての文献レビューと討論(7) 報告者 1 による報告と討論 4 #08：関心のある領域についての文献レビューと討論(8) 報告者 2 による報告と討論 4 #09：関心のある領域についての文献レビューと討論(9) 報告者 1 による報告と討論 5 #10：関心のある領域についての文献レビューと討論(10) 報告者 2 による報告と討論 5 #11：関心のある領域についての文献レビューと討論(11) 報告者 1 によるテーマの絞り込み 1 #12：関心のある領域についての文献レビューと討論(12) 報告者 2 によるテーマの絞り込み 1 #13：関心のある領域についての文献レビューと討論(13) 報告者 1 によるテーマの絞り込み 2 #14：関心のある領域についての文献レビューと討論(14) 報告者 2 によるテーマの絞り込み 2 #15：関心のある領域についての文献レビューと討論(15) まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	それぞれ関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめること。						
授業方法	演習。 授業では、文献レビューの発表と、それに基づく討論を行う。						
評価基準と評価方法	授業での発表（40%）、および討論への参加の程度（60%）により評価する。						
履修上の注意	原則として欠席は認めない。 授業計画は、受講者が2名の場合を想定している。また、この科目はゼミ科目である。したがって、受講者数や各受講者数の研究の進度によって、授業計画の内容は変化する。 なお、担当者は対人関係精神分析／関係精神分析的なオリエンテーションで心理臨床活動を行っていることを理解しておくこと。						
教科書	なし。						
参考書	指導の過程において、適時紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバー	MP532B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文の研究計画の立案						
授業の概要	喪失やトラウマおよびその関連領域における各自の研究テーマについて、修士論文の研究計画を立案することを目指す。先行研究をもとに各自の研究テーマを絞り込み、具体的な研究計画を立てる。						
到達目標	修士論文のテーマを絞り込み、具体的な研究計画を立てることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 具体的な研究計画を立てる (1)：研究方法の検討 第3回 具体的な研究計画を立てる (2)：研究方法の検討 第4回 具体的な研究計画を立てる (3)：尺度の収集 第5回 具体的な研究計画を立てる (4)：尺度の収集 第6回 具体的な研究計画を立てる (5)：質問項目の検討 第7回 具体的な研究計画を立てる (6)：質問項目の検討 第8回 具体的な研究計画を立てる (7)：データ収集の方法 第9回 具体的な研究計画を立てる (8)：データ収集の方法 第10回 具体的な研究計画を立てる (9)：データ処理法の検討 第11回 具体的な研究計画を立てる (10)：データ処理法の検討 第12回 具体的な研究計画を立てる (11)：研究計画書の作成 第13回 具体的な研究計画を立てる (12)：研究計画書の作成 第14回 具体的な研究計画を立てる (13)：研究計画書の修正 第15回 具体的な研究計画を立てる (14)：研究計画書の修正						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各自の研究テーマと関連のある文献を熟読し、レジュメを作成すること。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	授業への参加度 (50%) と発表 (50%) により総合的に評価する。						
履修上の注意	主体的に取り組むことが求められる。						
教科書							
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	木場 律志					科目ナンバー	MP532B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学的援助（家族療法、ブリーフセラピー）の理論や技法について学ぶとともに、修士論文作成に向けて、臨床心理学的研究のテーマを決定する。						
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーに関する理論や技法について、文献やロールプレイを通して学びつつ、この領域における先行研究を概観することを通して、自身の研究テーマを決定する。						
到達目標	1. 家族療法やブリーフセラピーに関する理論や技法について説明できる。 2. 臨床心理学的研究の中から自身の関心のあるテーマを取り上げ、発表することができる。 3. 修士論文のための研究計画を立案することができる。						
授業計画	第1回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション① 家族療法総論 第2回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション② 多世代派家族療法 第3回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション③ 構造派家族療法 第4回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション④ コミュニケーション派家族療法 第5回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑤ システムズアプローチ 第6回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑥ 家族療法まとめ 第7回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑦ ブリーフセラピー総論 第8回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑧ 解決志向アプローチ 第9回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑨ 社会構成主義心理療法総論 第10回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑩ ナラティブ・セラピー 第11回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑪ コラボレイティブ・アプローチ 第12回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑫ リフレクティング・プロセス 第13回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑬ ブリーフセラピーまとめ 第14回 文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑭ まとめ 第15回 修士論文テーマの決定 研究計画						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う家族療法やブリーフセラピーの関連書や論文を読んで予習する。（学習時間：90分） 授業後学習：講義で取り上げた内容の要点を確認し、整理しておく。（学習時間：90分）						
授業方法	ゼミ形式で講義、演習、発表、グループディスカッション、ロールプレイなどを行う。						
評価基準と評価方法	・発表50%：（到達目標2.に関する到達度の確認） ・質疑応答25%：（到達目標1. および3.に関する到達度の確認） ・討論25%：（到達目標1. および3.に関する到達度の確認）						
履修上の注意	自発的に質問や意見を出し、積極的に参加することを求める。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバー	MP532B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けての研究						
授業の概要	「臨床心理学特別研究A」の内容を発展させ、レビュー論文を作成する。 具体的な研究方法を決定し、データの収集と分析を行う。						
到達目標	修士論文の研究方法を実践し、その結果を説明できる。 研究内容を、学術論文、およびプレゼンにより明確に伝えることができる。 討議を通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。						
授業計画	第1回 レビュー論文作成(1) 第2回 レビュー論文作成(2) 第3回 レビュー論文作成(3) 第4回 レビュー論文作成(4) 第5回 研究方法の検討(1) 第6回 研究方法の検討(2) 第7回 研究方法の検討(3) 第8回 研究方法の検討(4) 第9回 データの分析(1) 第10回 データの分析(2) 第11回 データの分析(3) 第12回 データの分析(4) 第13回 研究結果のまとめ(1) 第14回 研究結果のまとめ(2) 第15回 今後の研究の進め方について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	レビュー論文作成（90分×8回） データ分析（90分×8回） 討議用資料作成（90分×4回） 基本的な活動は授業外に行い、授業では進捗状況の確認や修正を行います。 研究テーマに関する文献購読を積極的行ってください。						
授業方法	演習、個別指導						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献：50%、発表・提出物：50%						
履修上の注意	「臨床心理学特別研究A」をさらに発展させる授業です。 学外見学・研修を行うことがあります。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバー	MP532B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文のための研究計画を作成する。						
授業の概要	臨床心理学特別研究Aから引き続き、個別のテーマに沿って文献を読むことやディスカッションを行う。そしてその中で、自分のテーマに応じた具体的な研究の手続きについて学び、研究計画を作成していく。						
到達目標	1. 自分自身の研究テーマに関連した研究方法とその特徴を説明することができる。 2. 自分自身の研究テーマの具体的なテーマや鍵となる概念を決めることができる。 3. 自分自身の研究テーマに応じた具体的な研究計画を考えることができる。						
授業計画	第1回：夏休み中の課題に基づいた発表（1）キーワードに関する先行研究の要約 第2回：夏休み中の課題に基づいた発表（2）先行研究の課題点の検討 第3回：夏休み中の課題に基づいた発表（3）先行研究の発展案の検討 第4回：文献レビューの作成（1）論文の収集と要約発表 第5回：文献レビューの作成（2）論文の追加収集と再発表 第6回：文献レビューの作成（3）先行研究の課題点の検討（課題点1の提起） 第7回：文献レビューの作成（4）先行研究の課題点の検討（課題点2の提起） 第8回：文献レビューの作成（5）先行研究の発展案の検討（第1案の作成） 第9回：文献レビューの作成（6）先行研究の発展案の検討（第2案の作成） 第10回：問題と目的の検討（1）発展研究の問いの生成 第11回：問題と目的の検討（2）問いに対する仮説の生成 第12回：方法と結果の分析方法の検討（1）仮説検証方法の考案 第13回：方法と結果の分析方法の検討（2）仮説検証方法の具体化 第14回：研究計画書の作成と発表（1）主に「問題と目的」から「仮説」の立ち上げまで 第15回：研究計画書の作成と発表（2）主に「仮説」から「方法」まで						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：修士論文につながる文献や調査を自ら調べて、理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、次に読み解く文献を収集する。（学習時間：90分）						
授業方法	ゼミ形式。						
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50％／発表・提出物（50％） ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし、欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え、改善点を提示する。						
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。						
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバー	MP532B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学研究の基礎について学ぶ。また、心理援助の基本について学ぶとともに、家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの基礎理論について学ぶ。						
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーの領域に関する理論的枠組みや技法について、文献やロールプレイを通して学ぶ。また、この領域における研究について概観し、自らの研究テーマを模索する。						
到達目標	1. 家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの理論や技法について説明できる。 2. 関心の領域についての臨床心理学の理論について説明でき、研究計画を立てるために必要な文献を読み、発表することができる。 3. 修士論文のための研究計画を立案することができる						
授業計画	第1回 授業のすすめ方（ガイダンス） 第2回 臨床心理学における研究方法について 第3回 臨床心理学研究の実際（家族療法）（1） 第4回 臨床心理学研究の実際（システム理論）（2） 第5回 臨床心理学研究の実際（ジョイニング）（3） 第6回 臨床心理学研究の実際（MRI理論について）（4） 第7回 臨床心理学研究の実際（リフレーミング）（5） 第8回 臨床心理学研究の実際（ブリーフセラピー）（6） 第9回 臨床心理学研究の実際（ナラティブセラピー）（7） 第10回 臨床心理学研究の実際（社会構成主義心理療法）（8） 第11回 臨床心理学研究の実際（量的研究）（9） 第12回 臨床心理学研究の実際（実験研究）（10） 第13回 臨床心理学研究の実際（調査研究）（11） 第14回 臨床心理学研究の実際（効果研究）（12） 第15回 臨床心理学研究の実際（質的研究）（13）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学のものならず、家族療法やブリーフセラピーの関連書や論文などによる学習や発表の準備（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ						
評価基準と評価方法	発表（60%）、質疑応答（20%）、討論（20%）						
履修上の注意	ロールプレイや発表をはじめ、自発的積極的参加が望まれる。						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	中村 博文					科目ナンバー	MP532B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文研究テーマの決定						
授業の概要	様々な事象について、それを臨床心理学的な視点からどのように把握するかを学ぶ。また、修士論文研究のテーマを決定する。						
到達目標	関心のある心理学的現象に関わる先行研究を取り上げ、発表することができる。 修士論文研究のテーマを決定し、研究計画を作成できる。						
授業計画	#01：関心のある領域についての文献レビューと討論(1) 報告者1による報告と討論1 #02：関心のある領域についての文献レビューと討論(2) 報告者2による報告と討論1 #03：関心のある領域についての文献レビューと討論(3) 報告者1による報告と討論2 #04：関心のある領域についての文献レビューと討論(4) 報告者2による報告と討論2 #05：関心のある領域についての文献レビューと討論(5) 報告者1による報告と討論3 #06：関心のある領域についての文献レビューと討論(6) 報告者2による報告と討論3 #07：関心のある領域についての文献レビューと討論(7) 報告者1による報告と討論4 #08：関心のある領域についての文献レビューと討論(8) 報告者2による報告と討論4 #09：関心のある領域についての文献レビューと討論(9) 報告者1による報告と討論5 #10：関心のある領域についての文献レビューと討論(10) 報告者2による報告と討論5 #11：関心のある領域についての文献レビューと討論(11) 報告者1による研究計画の立案 #12：関心のある領域についての文献レビューと討論(12) 報告者2による研究計画の立案 #13：修士論文テーマの決定・研究計画の作成・報告(1) 報告者1による報告 #14：修士論文テーマの決定・研究計画の作成・報告(2) 報告者2による報告 #15：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	それぞれ関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめること。						
授業方法	演習。 授業では、文献レビューの発表と、それに基づく討論を行う。						
評価基準と評価方法	授業での発表（40%）、研究計画の作成（40%）、および討論への参加の程度（20%）により評価する。						
履修上の注意	原則として欠席は認めない。 授業計画は、受講者が2名の場合を想定している。また、この科目はゼミ科目である。したがって、受講者数や各受講者数の研究の進度によって、授業計画の内容は変化する。 なお、担当者は対人関係精神分析／関係精神分析的なオリエンテーションで心理臨床活動を行っていることを理解しておくこと。						
教科書	なし。						
参考書	指導の過程において、適時紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特論						
担当教員	前期：大和田 後期：坂本					科目ナンバー	MP5010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	心理臨床の現場に立つ者として是非とも理解しておきたい心の問題、心理支援の方法、またその際に必要となる倫理やマナーについて教授する。						
授業の概要	心理臨床の専門家として門出する院生が、幅広い臨床心理学の分野について一定の知識・素養を身に着けることが大きな目的である。前期は、臨床心理学的な諸問題を取りあげ、問題となる行動や症状を効果的にアセスメントし、支援に結びつけるための基礎的方法を中心に講義を展開する。また、後期では、主要な心理療法について、その理論や技法を中心に講義を展開する。さらに、こうした講義を通して、心理臨床家に必要な倫理事項やマナーについても適宜教授する。						
到達目標	- 臨床心理学的諸問題の具体的内容について説明できる。 - 臨床心理学的支援・心理療法の具体的内容について説明できる。 - 心理臨床家として必要な倫理事項やマナーについて説明できる。						
授業計画	第1回 前半の授業のすすめ方について（ガイダンス） 第2回 様々な症状論 第3回 臨床心理学的援助の考え方 第4回 発達障害 第5回 統合失調症 第6回 気分障害（大うつ病性障害） 第7回 気分障害（双極性障害） 第8回 不安障害 第9回 強迫性障害 第10回 ト라우マ関連障害 第11回 解離性障害 第12回 摂食障害 第13回 認知症 第14回 パーソナリティ障害 第15回 がん患者と家族の心理的問題 第16回 後半の授業のすすめ方について（ガイダンス） 第17回 精神分析的な心理療法の実際 第18回 行動療法の実際 第19回 来談者中心療法の実際 第20回 認知行動療法の実際 第21回 家族療法の実際 第22回 その他の心理療法の実際 第23回 心理療法の倫理について事例から学ぶ（1）守秘義務など 第24回 精神分析的な心理療法の事例に学ぶ 第25回 行動療法の事例に学ぶ 第26回 来談者中心療法の事例に学ぶ 第27回 認知行動療法の事例に学ぶ 第28回 家族療法の事例に学ぶ 第29回 その他の心理療法について事例から学ぶ 第30回 心理療法の倫理について事例から学ぶ（2）多重関係など						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について臨床心理学や精神医学の関連書にて予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	受講者による発表およびディスカッションを中心としながら適宜解説を行う						
評価基準と評価方法	発表内容50%、ディスカッションの姿勢や質疑応答など講義への関与度50%						
履修上の注意	1/3以上の欠席者には単位を与えない						
教科書	特に指定しない。適宜、資料を配布する。						

参考書	講義の中で紹介する。
-----	------------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理基礎実習						
担当教員	大和田 攝子・中村 博文・木場 律志					科目ナンバー	MP5020
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜5～6	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床的援助における基本的技能の習得						
授業の概要	心理臨床的援助の基本的技能を身につけることを目的とする。 授業には、次のような内容が含まれる。 ・基礎講義の受講（前期） ・ロール・プレイの実施と検討（前期） ・神戸松蔭こころのケア・センターでの、相談実務実習（2018年6月～2019年3月） ・神戸松蔭こころのケア・センターでの、陪席実習（2018年10月～2019年3月） ・学外スーパーバイザーとの、スーパービジョン実習（ケース担当後～） ・ケース・カンファレンスへの参加（通年）						
到達目標	前期：心理臨床的援助の対象者と適切な関わりを可能とするために必要となる、最も基本的な知識、技術、ならびに態度について、説明することができる。 後期：前期で学んだことをもとに、指導を受けながら対象者と関われるようになる。						
授業計画	前期（6月以降は、相談実務実習が開始される） #01：オリエンテーションー基礎実習で何を学ぶか #02：ケア・センターの利用の仕方 #03：基礎講義（1） クライアントとの接し方のポイント #04：基礎講義（2） インテーク面接のポイント #05：基礎講義（3） 心理査定実施のポイント #06：基礎講義（4） 家族との接し方のポイント #07：基礎講義（5） プレイセラピーのポイント #08：基礎講義（6） 心理療法の構造作りのポイント #09：基礎講義（7） 紹介先や他機関との連携の仕方 #10：ロール・プレイの実施と検討（1） 電話 #11：ロール・プレイの実施と検討（2） インテーク #12：ロール・プレイの実施と検討（3） 家族面接 #13：ロール・プレイの実施と検討（4） プレイセラピー #14：ロール・プレイの実施と検討（5） 困った質問 #15：前期のまとめ 後期 #16：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（1） 報告者A、他 #17：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（2） 報告者B、他 #18：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（3） 報告者C、他 #19：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（4） 報告者D、他 #20：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（5） 報告者E、他 #21：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（6） 報告者F、他 #22：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（7） 報告者G、他 #23：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（8） 報告者H、他 #24：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（9） 報告者I、他 #25：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（10） 報告者J、他 #26：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（11） 報告者K、他 #27：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（12） 報告者L、他 #28：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（13） 報告者M、他 #29：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（14） 報告者N、他 #30：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討（15） 報告者O、他						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・基礎講義：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 ・ロール・プレイ：逐語録を作成すること。 ・神戸松蔭こころのケア・センターでの陪席：陪席ケースに関連する文献を検索し、読んでおくこと。 ・スーパービジョン実習：ケア・センターにおける担当ケースについて、スーパーバイザーにより指示される形式で資料を作成すること。 ・ケア・センターにおける担当ケースについて、カンファレンスでの報告資料作成、ならびにケース報告を行うこと。						
授業方法	講義、演習、実習。						

評価基準と評価方法	実習への参加態度（40%），各種報告書や作成資料（30%），カンファレンスでの報告や発言（30%）により評価する。
履修上の注意	スーパービジョン実習にかかる費用については，「臨床心理実習」と合わせて50,000円までは大学が負担する。それ以上の費用は自己負担となる。
教科書	鑪 幹八郎・名島潤慈（編著） 2010 心理臨床家の手引き 第3版 誠信書房 ISBN978-4-414-40059-5
参考書	授業の進行に伴って紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ	MP5030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理査定の基本と実践						
授業の概要	臨床心理査定、特に検査法について、代表的な臨床心理検査の基本的知識と実践力を習得する。 互いに被検査者・検査者・記録者となり代表的な臨床心理検査を施行し、そのデータを用いて、採点方法、解釈の仕方、所見の書き方などを学ぶ。						
到達目標	代表的な臨床心理検査(特にロールシャッハ・テスト)について、施行・採点・解釈を行い、所見としてまとめることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション ～臨床心理査定の概要～ 第2回 代表的な臨床心理検査(1) 第3回 代表的な臨床心理検査(2) 第4回 ロールシャッハ・テスト(1) ～施行法～ 第5回 ロールシャッハ・テスト(2) ～採点法～ 第6回 ロールシャッハ・テスト(3) 第7回 ロールシャッハ・テスト(4) 第8回 ロールシャッハ・テスト(5) 第9回 ロールシャッハ・テスト(6) ～結果の整理法～ 第10回 ロールシャッハ・テスト(7) 第11回 ロールシャッハ・テスト(8) ～結果の解釈法～ 第12回 ロールシャッハ・テスト(9) 第13回 臨床心理検査所見の書き方(1) 第14回 臨床心理検査所見の書き方(2) 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	臨床心理検査施行（90分×4回） 採点と結果の整理（90分×12回） 結果の解釈と所見作成（90分×8回） 基本的な活動は授業外に行い、授業時間を使って理解の共有・修正・確認を行います。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献：40%、提出物：60%						
履修上の注意	授業で取り上げない臨床心理検査についても、積極的に学んでください。						
教科書							
参考書	片口安史著(1987) 新・心理診断法ーロールシャッハ・テストの解説と研究 金子書房 ISBN10:4760825487						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理査定演習Ⅱ						
担当教員	中村 博文					科目ナンバー	MP5040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理アセスメントの実際						
授業の概要	投映法検査、質問紙検査、知能検査、発達検査などの各種心理検査について、実際の臨床現場での検査実施や臨床事例の検討などを通じて、その臨床的応用の方法について検討する。 また、検査の応用を含む、臨床心理査定について学習する。						
到達目標	臨床心理アセスメントについて説明できる。 必要に応じた適切なテストバッテリーを組み、実施することができる。 テスト結果を分析、解釈し、所見を作成できる。						
授業計画	#01：テスト・バッテリー #02：臨床事例検討(1) #03：心理臨床実践における質問紙検査の利用 #04：臨床事例検討(2) 報告者Aによる事例報告と検討 #05：臨床事例検討(3) 報告者Bによる事例報告と検討 #06：心理臨床実践における知能検査の利用 #07：臨床事例検討(4) 報告者Cによる事例報告と検討 #08：臨床事例検討(5) 報告者Dによる事例報告と検討 #09：心理臨床実践における発達検査の利用 #10：臨床事例検討(6) 報告者Eによる事例報告と検討 #11：臨床事例検討(7) 報告者Fによる事例報告と検討 #12：心理臨床実践における投映法検査の利用 #13：臨床事例検討(8) 報告者Gによる事例報告と検討 #14：臨床事例検討(9) 報告者Hによる事例報告と検討 #15：まとめ、レポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：心理臨床で用いられる検査について、その理論や実施方法について学習しておくこと。また、協力機関（心療内科クリニック、神戸松蔭こころのケア・センター）で心理検査を実施した場合には、結果をまとめ、授業内で報告できるよう準備しておくこと（学習時間90分）。 授業後学習：授業で検討した各種検査について、あるいは報告書の書き方について、文献による学習を深めること（学習時間90分）。						
授業方法	演習。						
評価基準と評価方法	授業への参加態度（60%）、および期末レポート（40%）により評価する。						
履修上の注意	臨床心理検査の検討が中心となる授業なので、欠席は原則として認めない。						
教科書	なし。						
参考書	必要に応じて、適時紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理実習						
担当教員	坂本真佐哉・黒崎優美・榊原久直					科目ナンバー	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜1～2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床的援助における応用的技能の習得						
授業の概要	1. 学内実習施設における相談実務実習。 2. 同じく学内実習施設においてクライアントの相談面接を担当し、教員の指導と学外専門家のスーパーヴィジョンを受けながら臨床心理学的援助の実際を学ぶ。 3. ケースカンファレンスで事例を報告し、討論を行なう。 4. 担当した事例について、事例研究として論文にまとめる。 5. 病院や学校など学外の施設において心理臨床業務の実際について、実習を通して学習する。また、他職種の専門性についての理解を深め、チームとしての業務の進め方などについて体験的に学ぶ。						
到達目標	1. 相談実務実習を通して心理相談の流れを理解し、来談者への電話対応、応接ができる。 2. 心理援助における見立ておよびケースマネジメントについて理解し、実践できる。 3. 事例研究の方法を理解し、事例研究論文としてまとめることができる。 4. 学外実習を通して、専門機関の実際について理解し、与えられた職務を実践できる。						
授業計画	第1回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (1) 第2回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (2) 第3回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (3) 第4回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (4) 第5回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (5) 第6回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (6) 第7回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (7) 第8回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (8) 第9回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (9) 第10回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (10) 第11回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (11) 第12回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (12) 第13回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (13) 第14回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (14) 第15回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (15) 第16回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (16) 第17回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (17) 第18回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (18) 第19回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (19) 第20回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (20) 第21回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (21) 第22回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (22) 第23回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (23) 第24回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (24) 第25回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (25) 第26回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (26) 第27回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (27) 第28回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (28) 第29回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (29) 第30回 学内実習、ケースカンファレンス、事例研究、学外実習 (30)						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・事例研究論文やその他の論文、専門書などを読み、さまざまな事例への対応および専門機関における実践について学ぶこと。 ・神戸松蔭こころのケア・センターでの陪席、ケース担当実習：担当ケースに関連する文献を検索し、読んでおくこと。担当ケースの面接記録を作成すること。カンファレンスにおける担当ケースの報告資料作成、ならびにケース報告を行うこと。 ・スーパーヴィジョン実習：スーパーヴァイザーにより指示される形式で、資料を作成すること。 ・学外実習：実習報告書の作成を行うこと。						
授業方法	学内実習施設「神戸松蔭こころのケア・センター」及び学外実習施設における実習とカンファレンスでの討論						
評価基準と評価方法	実習への参加態度（40%）、各種報告書や作成資料（30%）、カンファレンスでの報告や発言（30%）						
履修上の注意	・学外実習で必要となる交通費については、自己負担となる。 ・スーパーヴィジョン実習にかかる費用については、「臨床心理基礎実習」と合わせて50,000円までは大学が負担する。それ以上の費用は自己負担となる。 ・ICレコーダーなど面接場面を録音できるポータブル機器を準備し、使用方法に習熟しておくこと。						

教科書	授業の進行に伴って紹介する
参考書	

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）						
担当教員	中村 博文					科目ナンバー	MP5050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床面接における基礎的技法の習得。						
授業の概要	さまざまな心理臨床理論とその方法について学ぶとともに、臨床心理面接を行うための基本的態度および基礎的技法を、応答訓練、ロールプレイ、試行カウンセリングなどを通じて、体験的に学習する。						
到達目標	心理臨床面接の特徴を説明できる。 力動論、行動論、認知論、その他の、さまざまな心理臨床理論の理論と方法について概説できる。 臨床心理面接で必要となる基本的な応答技法を用いることができる。 試行カウンセリングを行い、そのプロセスを資料にまとめ、発表できる。						
授業計画	#01：オリエンテーション／心理臨床家としての基本的態度 #02：心理支援に関する理論と方法－さまざまな考え方と方法 #03：応答訓練(1)－応答技法 #04：応答訓練(2)－紙上応答／試行カウンセリングの準備 #05：応答訓練(3)－聴取応答 #06：応答訓練(4)－ロールプレイ #07：試行カウンセリングの検討(1) 報告者Aの事例検討 #08：試行カウンセリングの検討(2) 報告者Bの事例検討 #09：試行カウンセリングの検討(3) 報告者Cの事例検討 #10：試行カウンセリングの検討(4) 報告者Dの事例検討 #11：試行カウンセリングの検討(5) 報告者Eの事例検討 #12：試行カウンセリングの検討(6) 報告者Fの事例検討 #13：試行カウンセリングの検討(7) 報告者Gの事例検討 #14：試行カウンセリングの検討(8) 報告者Hの事例検討 #15：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前準備学習：教科書の該当部分を読んでおくこと（学習時間90分）。 授業後学習：授業で学んだことの要点を振り返り、整理しておくこと。また、応答訓練、試行カウンセリング実施後は、逐語録の作成等必要な作業を行うこと（学習時間90分）。						
授業方法	講義、および演習実習的な内容を含む）。 受講者は、5回の試行カウンセリングを行い、授業内で発表を行わなければならない。また、その発表に基づいて、討論を行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加態度（60%），および試行カウンセリングの発表（40%）により評価する。						
履修上の注意	応答訓練、および試行カウンセリングの検討が中心となる授業なので、欠席は原則として認めない。 授業計画は、受講者が8名の場合を想定している。したがって、受講者数によって授業計画の内容ならびに回数に変化することがある。						
教科書	鑪 幹八郎 1977 試行カウンセリング 誠信書房 ISBN978-4414401295						
参考書	Ivey, A. E. 福原真知子・相山喜代子・國分久子・楡木満生（訳編） 1985 マイクロカウンセリング “学ばうー使うー教える” 技法の統合：その理論と実際 川島書店 ISBN978-4761003296 土居健郎 1992 新訂・方法としての面接－臨床家のために 医学書院 ISBN978-4-260-11769-2						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理面接特論Ⅱ						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバー	MP5060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床面接におけるクライアントやセラピストの動きを理解する基礎的な視点の習得						
授業の概要	臨床心理面接の中で生じるクライアントやセラピストの言語的・非言語的、および情動的なコミュニケーションの動きを理解するという視点を、文献を用いたワーク、ペアでのロールプレイを用いたビデオ分析を通じて体験的に学習する。						
到達目標	1. 心理臨床面接における3つのコミュニケーションの特徴を説明できる。 2. ロールプレイのビデオ分析を行い、そのプロセスを資料にまとめ、発表できる。 3. ビデオ分析から得た情報から、ケースの見立てと方針を計画することができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 心理臨床家が行う援助とは 第2回：面接過程を学ぶ① ～アセスメント面接から治療同盟の構築～ 第3回：面接過程を学ぶ② ～転移と逆転移の理解～ 第4回：面接過程を学ぶ③ ～抵抗をめぐって～ 第5回：面接過程を学ぶ④ ～徹底操作と終結～ 第6回：面接内の言語的コミュニケーションの理解① ～テリーの症例：前期より～ 第7回：面接内の言語的コミュニケーションの理解② ～テリーの症例：中期より～ 第8回：面接内の言語的コミュニケーションの理解③ ～テリーの症例：後期より～ 第9回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ① ～ペア1の検討～ 第10回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ② ～ペア2の検討～ 第11回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ③ ～ペア3の検討～ 第12回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ④ ～ペア4の検討～ 第13回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ⑤ ～ペア5の検討～ 第14回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ⑥ ～ペア6の検討～ 第15回：まとめとふりかえり						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：事前に提供する配布資料すべてに目を通す。加えて担当回にはそれらの資料の要約や補足情報を収集し資料の作成を行う。（学習時間：90分） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、授業や発表の振り返りを行うとともに、授業内で紹介された追加の文献や資料に目を通す。（学習時間：90分） これら事前事後学習に加えて、ロールプレイを実施するとともに、ビデオ分析の逐語起こし作業を行う。						
授業方法	講義、実習、演習の形式を織り交ぜて行う。 受講者はペアに分かれてロールプレイを行うとともに、そのビデオ記録を分析し、授業内で発表しなければならない。またその発表に基づいて、討論を行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度：30％／ロールプレイのビデオ分析の発表：30％／期末レポート：40％ ※授業への参加・貢献度は授業時間内での発表やディスカッション、感想・質問シートの記入を元に算定する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、評価を伝え、改善点を提示する。						
履修上の注意	授業計画は履修生の人数に応じて適宜スケジュールを変更して実施する。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する。						
参考書	丸田俊彦（1986）サイコセラピー練習帳——グレーテルの宝探し。岩崎学術出版社。 ISBN：978-4753386048 丸田俊彦（1988）サイコセラピー練習帳Ⅱ——Dr. Mへの手紙。岩崎学術出版社。 ISBN：978-4753388066						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床薬理学特論						
担当教員	若栄 徳彦					科目ナンバー	MP5230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床家が知っておくべき向精神薬の基本的事柄について学習する。						
授業の概要	薬物心理学とは、薬を使用することによって精神がどの様に構成されているかを探る学問である。薬物心理学を念頭に置いて、向精神薬が作用するメカニズムに関して化学的・生物学的な基盤を学習する。続いて、各種向精神薬（抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗精神病薬など）について各種の特徴（プロフィール）、副作用について各論で学習する。						
到達目標	臨床薬理学の内、精神薬理学の基礎について理解できるとともに、薬物心理学を念頭に置いて、心理相談の中で薬についてわかりやすく説明できるようになる。						
授業計画	第1回 総論①概念 第2回 ②向精神薬の作用メカニズムについて1 第3回 ③向精神薬の作用メカニズムについて2 第4回 ④向精神薬の臨床場面で使用する実際について1 第5回 各論①抗精神病薬1 第6回 ②抗精神病薬2 第7回 ③抗うつ薬1 第8回 ④抗うつ薬2 第9回 ⑤気分安定薬1 第10回 ⑥気分安定薬2 第12回 ⑦睡眠薬1 第13回 ⑧睡眠薬2 第14回 ⑨抗認知症薬1 第15回 ⑩抗認知症薬2 以上について学習する。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	心理実習、特に医療機関実習等で薬の実際について理解を深めて頂きたい。その為にどのような授業外学習を行ったらいいか、自分なりに気づいていくことになる。						
授業方法	講義を中心とする。必要に応じて、配布資料を用いる。						
評価基準と評価方法	授業中の姿勢10・参加度10・レポート80の割合で評価する。						
履修上の注意	授業内容に関する質問はe-mailで。メールアドレスについては後日連絡。						
教科書	特になし						
参考書	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。						